

平成26年度「蔵書点検」結果

<日程>

2月25日(水)～3月10日(火) 14日間

<点検対象・総数>

開架閲覧室全資料(約22万点)

<点検結果>

今年度点検分については、新たに230点(全資料の0.019%)が所在不明となったことがわかりました。

<その他>

図書館システムの更新をおこないました。

また、年々増加する資料の収蔵に対応するため、閉架書庫のスペース調整のための移動作業をあわせて行いました。

.....

<概要>

2月25日(水)～3月10日(火)までの14日間にわたり休館し、「蔵書点検」を行いました。期間中は館内資料の完全配列、システム更新作業、移動作業、蔵書データの突き合わせ作業等を行い、迅速かつ確実なサービスを行うための態勢を整えることができました。

<目的>

当館は100万点を超える蔵書があります。これらの中から、迅速かつ確実に資料を探し出すためには、コンピュータのデータどおり正しい場所に資料が置かれている必要があります。そのためには、実際に書架にある資料とコンピュータのデータを突き合わせ、正しい場所に置き直したり、資料のデータを蔵書データと一致させる必要があります。この作業を「蔵書点検」と呼び、当館では年1回定期的に実施しています。

<日程>

蔵書冊数が多い当館の場合は、一度に全蔵書を点検することは日程上困難なため、4年サイクルで一巡するよう蔵書を分けて点検(開架閲覧室の資料は毎年点検)しています。利用者の皆さんにでき

るだけご迷惑がかからないよう、利用が比較的少ない時期を選び、近隣の図書館と時期が重ならないよう調整しています。

<点検方法>

- 1 館内の全蔵書を背ラベルどおりに完全配列します
- 2 ポータブルのバーコード読み取り機を使って、点検箇所全ての資料のバーコードを1冊1冊読み取ります
- 3 読み込んだデータと蔵書のデータを機械的に突き合わせます
所在場所とデータが違う資料や、所在が不明な資料等、問題がある資料がリストに打ち出されます
- 4 リストに従い、所在不明の資料が書架の奥に落ちていないか、間違った場所に置かれていないかなどを探索します
- 5 発見された資料のラベルやデータを正しく修正したり、どうしても見つからなかった資料を不明図書扱いに変更します